

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200082		
法人名	特定非営利活動法人 憲友会		
事業所名	グループホーム さち		
所在地	熊本県上天草市大矢野町上字西大平7314		
自己評価作成日	令和4年 9 月 10 日	評価結果市町村報告日	令和4年12月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、家族、職員を大きな家の大家族の一員として毎日生活をしています。「ただいま」「いらっしゃい」「気を付けて」が挨拶です。食事にも力をいれており、裏の畑には、無農薬の野菜を植えていたり、入居者の家族から新鮮な魚をいただいたりしてメニューに取り入れており、入居者の皆様より好評を得ている。園庭には、緑の芝生、花壇には、赤いハイビスカス、玄関入口には鉢植えのブルメニアが咲き乱れている。ホームの居間や食堂、入居者様の各部屋からは、湯島や遠くに島原半島が見渡せている。入居者様や家族、訪問者の方々から景色が綺麗と喜ばれている。ホームでは、玄関には施錠していないし夏場では全室網戸にして開けたままの状態です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の生活に馴染みのある海、季節の花々に囲まれた事業所からの眺めは風光明媚で、訪問時には、風と光、景色を感じることも喜びです。1ユニット定員9名の事業所での生活は家庭そのもので、季節や地域を感じる豊かな食卓を楽しみ、穏やかな時間が流れています。コロナ禍でありながらも工夫しながら家族の面会・訪問を受け入れ、餅つき等季節行事には近隣住民の参加も継続しています。近年新入職員も受け入れ、資格取得に向けた取組みも行われていました。同業者との協力も見られ、地域全体での高齢者支援に向け取組みをされている様子が聞かれました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年 10 月 19 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を事務所にかかげているので、職員全員が入居者様の尊厳を保つように努めている。	人生の功労者である高齢者に敬意を表し、家庭的な雰囲気大切に法人の基本理念は事業所に掲示されている。パンフレットにも記載し、入居者・家族等へも示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍による、祭り等の中止があつてここ2～3年はできていない。	コロナ禍により地域行事での交流は難しい状況であるが、年末の餅つきには近隣住民の参加も続いており、日頃の近所付き合いが継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	別荘地帯ではあるが、近隣の方々と交流を深めている。コロナ禍ではあるが、昨年の餅つきには近隣の二家族が参加された。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議だがコロナ禍の為に書面開催が多く、対面会議は1回のみであつて、参加者からの意見などをお聞きし、サービス提供の参考にしている。	コロナ禍により書面による報告が多くなったが、感染レベルに応じて出来るだけ対面での開催を都度検討している。対面による会議開催の際には参加者から意見を得、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者も参加しておられ意見交換をしている。又、わからないことがあればその都度相談するようにしている。	運営推進会議には市より参加もあり、事業所の活動や運営状況を報告している。書面開催の際にも毎回コメントを得ている。日頃から不明点の問合せや報告・相談等で連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者一人一人の動きやペースに合わせて状況を観察している。網戸はあけている(施錠はしていない)	事業所では身体拘束をしないケアを実践している。入居者の身体状況によりやむを得ない状況が発生した際には家族の了承を得、職員の対応でできるだけ拘束をしないケアを行えるよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃、入居者様を意識して行動をしている。職員間で業務内での不適切な言動はしない様に努めている。		

グループホーム さち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度に関しては、勉強会において、職員全員で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入居者様やご家族が不安なことがないように質問などには丁寧に答えるようにし、十分に納得して利用が開始できるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会が難しくなっているので、支払い時に個別に意見を伺っている。遠方の方には、電話やメール等でお聞きしている。	以前のような頻回な面会は難しい状況が続いているが、近隣の御家族には支払いや入居者の通院介助等の来訪頂く機会を作り、入居者の状況報告や事業所に対する意見を得る等している。コロナリスクレベルにより面会受入れ対応を決め、家族の来所を受け入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議等で意見等があった場合は、管理者から黒板等へ書き職員へ伝えている。	日頃から職員は管理者や運営者に意見を表すことができる環境がある。コロナ禍にあっても勉強会等を継続し、職員育成にも力を入れているところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを図り、勤務希望を聞き、お互い様の気持ちで譲り合い調整を行って、働きやすい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内で月1回研修や勉強会に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨今のコロナ禍の為に、施設の方とは交流する機会がない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を基に、入居者様からの話を聞き、性格、過ごして来られた環境を把握し、他の入居者様や職員と安心して共同生活を送ることができる様に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族の不安・要望等の思いを気兼ねなく語る機会を作り、良好な関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分にいき、ニーズを見極め適切な対応が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体は入居者様であり、職員は共に暮らす意識をもち、その人らしい生活を送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為に、面会の回数が減少しているので電話やメール等で入居者様の生活状況等を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為に、気軽に面会ができず、請求書送付の時に一筆添え、その月の個人写真を送付して日々の様子をお伝えしている。	コロナ禍により地域行事や子ども会行事、地域からの来訪も難しくなった中、家族との関係が途切れないよう工夫を重ねた。入居者の日頃の写真の送付は家族にも喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察し、必要時に職員がさりげなく声をかけている。又、仲のいい入所者様から声をかけて頂き笑顔がみられる様に努めている。		

グループホーム さち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設入所・入院された時には情報提供を行い、在宅復帰時には、ケアマネジャーや民生員さん等に連絡をとり在宅生活がスムーズに送れる様に支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から、本人の思いや意向等を聞いて職員で話し合い本人の思いに沿った生活の実現に努めている。	現状、意向を表すことができる入居者も多く、職員との会話や寄り添いで思いや意向の把握を行っている。声掛けの工夫で入居者の選択の機会を作り、それぞれの思いを汲むよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、入居前のケアマネジャーからの情報を基に生活歴などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態などをケース記録に記入し、状態や心身の変化時などは、連絡帳・業務記録に記載し職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設研修会等にて、事例検討会を行い職員の意見を聞いたり、面会時に家族の要望等をお聞きして介護計画を作成している。	日頃のケアの記録やモニタリング、職員の意見をもとに、面会時等に得た家族の意見や意向を取り入れ、計画作成担当者が介護計画を作成している。見直しは基本的に半年ごと、身体状況の変化が見られる際は都度見直しを行っている。	介護計画は入居者より良い暮らしのためであるとともに理念にも繋がるものと考えます。介護計画の職員間の共有についての仕組み作りに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人の日々の状態、不穏状態時に言われた言葉、状況等をケース記録、業務日誌に記録して職員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者本人の希望や家族の意向をその都度確認し、その時々ニーズに応えることができる様に努めている。		

グループホーム さち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の元区長様、民生員様に運営推進会議に参加して頂き協力、支援をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は、ご本人様やご家族の意向で行っている。訪問診療でお願いしている。診療時には、職員が健康状態を主治医に報告している。又、体調の変化や緊急時にはご家族と連絡をとり専門医を受診する様に支援している。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、入居後協力医を希望される事例もある。通院が必要な場合は基本的に家族による付き添いを依頼しており、家族が遠方の際等には職員による通院も対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員全員が入居者様の体調を把握していて、体調不良等があった場合には主治医に連絡して指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、医療機関に情報の提供を行い、入院中の状態については、病院担当者に伺っている。退院時には、コロナ過の為にカンファレンスができないので情報提供書をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ご家族に重度化や終末期についての説明を行い、今後の意向を知り、署名・捺印をしていただいている。現在は、看取りを希望されているご家族はおられない。	入居説明時に事業所の対応・姿勢を説明しており、現在、看取りを前提とした積極的な受入れは行っていない。現状、医療処置が必要となった際には病院への移転を希望される例が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の状態を踏まえ、少しでも異常を感じた場合は情報を共有して、あわてず、落ちついて行動する様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の火災訓練や施設研修会で災害時の話し合いを行い、有事の際の対策をしている。	年2回の火災避難訓練を行っている。地域との連携もとれ、有事の際には協力頂けるようになっている。台風の際には管理者も出勤し状況の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別に対応することに心懸け不適切な声かけはないか職員同士で話し合いながら対応している。	入居者それぞれへの声掛け・言葉遣い等に配慮している。	職員の介護経験も長く、勉強会も重ねられていますが、理念に繋がるケアについて振り返り、具体的な事例を用いての勉強会を継続されることに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で、入居者様の方の思い等を聞き逃さない様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決めず、入居者様の意向に沿って、その人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った見だしなみができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を活かした献立をたて、入居者様達に楽しんでもらっている。	地域・季節の食材を利用し、職員手作りの食事を提供している。地域の味を大切に、祝い事時の赤飯、牡丹餅作り等、日々の営みを大切にする家庭そのものの食事である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個人の食事の摂取量が把握できる様に記録に残している。又、必要に応じて水分不足にならないように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人で出来る方には、声かけをし口腔ケアを行ってもらっている。困難な方には介助を行い、清潔保持に努めている。		

グループホーム さち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立出来ている方、困難な方達にも声かけでトイレ誘導を行っている。夜間は排泄用品を使い本人に合わせた支援を行っている。	入居者それぞれの状況により、自立困難な方にもできるだけ排泄の自立に向け、昼間は声掛けによりトイレへの誘導を行っている。夜間は安易にオムツを利用することなく、それぞれに応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足になりがちなのを考慮して、入居者様達に出来る範囲で運動をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、本人の発汗や失禁で汚染した場合などでは、シャワー浴等をして清潔保持に努めている。	基本的に週2回の入浴としている。その日の状況や汚染が見られた際には入浴・シャワー浴を行い、清潔保持を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご本人の様子から意向を捉え、自室や居間のソファで休んでいただくように声かけし、夜間は無理強いするような就寝がないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握できるように、薬剤情報提供書を各個人のケース記録に添付している。薬の変更や追加があったときには、連絡帳、業務日誌等に記録して全員が理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合った食事やおやつを提供したり、各イベントの手伝い等をして楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ過の為に外出はできていないが、必要に応じて家族の協力で病院受診等を行っている。	近年、入居者より外出の希望・意欲が聞かれることが減ってきている。コロナ禍でもあり、行事等による外出も行っていない。家族協力による定期的な通院は外出の機会となっている。	

グループホーム さち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設では、金銭は預からず、家族の方に必要な物を依頼したり、契約時に家族から品物の購入を依頼されている場合は買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話や、入居者が電話をかけたいと要望があった場合にはスムーズに会話ができる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関までのアプローチには、季節の花を植え、共有スペースにはソファを置き過ごしやすい様にしている。	リビングは食卓の他ソファ等、自由に過ごすことができるスペースがあり、思い思いの場所で過ごす入居者の姿がある。明るいリビングの窓からは季節の花々、生活に馴染んだ海の景色が広がり、季節の移り変わりを感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リラックスできる様に、ソファ等を多く置き、入居者様が楽しめる空間を作る様に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が自宅で使用していた家具等を持ち込み、自宅同様の生活ができる様に努めている。	押入れ・クローゼットが完備された居室には入居者馴染みの生活用品が持ち込まれ、安全に配慮した配置がなされている。居室の設えは家族の関わりも感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLに合わせた、居間の段差を利用した運動、廊下の手すりを使っての歩行訓練などの日常リハを行っている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム さち

作成日 令和 4 年 12 月 6 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回、昼間と夜間に火災訓練を行っているが、その他の自然災害についても避難の経路の確認や避難先の確認し備える。	災害が発生した時に安全迅速に避難が完了するようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練を実施する。 ・来年度中にBCP策定をすすめ全ての職員と共有する。 	12ヵ月
2	4	コロナ過の為に、対面での会議を見合わせており、運営推進会議が書面での一方的になっており、委員の皆様からの意見等を聞く手段を検討する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議な開催方法を再検討する。 ・書面開催の場合、委員から意見を聞き検討し、多くの意見を頂けるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本県から発令される感染症対策を尊重しながら適切な会議開催の方法を検討する。 ・書面開催の場合、意見を求めるだけでなく、委員からの提案なども受け入れホームの運営に活かす 	12ヵ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。